

北区きらりと光るものづくり顕彰



小山社長（右）と製造責任者の深堀さん（左）

きらめき企業部門

小山酒造株式会社

所在地 東京都北区岩淵町 26-10

電話 03-3902-3451

ホームページ <http://www.koyamashuzo.co.jp/>

受賞の概要

小山酒造は、1878年の創業以来「丸真正宗」を造っています。現在は普通酒の他に吟醸酒、大吟醸酒等を展開し、地元の酒店をはじめ東京駅や羽田空港の土産店、都内の百貨店で販売されています。量販店やコンビニエンスストアが地域商品を取り揃えるようになり、「丸真正宗」の販売も始まっています。

同社は、かつて「東京盛」という銘柄を持っていたことがわかりました。この銘柄の商標を復活させ、高級酒として展開する取り組みを始めています。「東京盛」については、同社が風味を出すための材料として酒を納入しているチョコレートメーカーが菓子で「東京盛」の商標を持っており、両社で協力して販売を相乗的に拡大する方策を検討しています。

近年、ワインを好む人たちが日本酒を飲み始めています。同社はこのような傾向に注目し、新しい客層を開拓するため、様々な方面で販路開拓を試みています。



会社外観



丸真正宗 純米吟醸

北区きらりと光るものづくり顕彰



社長(前列右から9番目)と社員の皆様

きらめき企業部門

株式会社 新盛インダストリーズ

所在地 東京都北区堀船4-12-15

電話 03-3913-0131

ホームページ <http://www.shinseiind.co.jp/>

● 受賞の概要

新盛インダストリーズは、1918年に建築金物を製作する鍛冶屋として創業、自転車の普及とともに内装式変速機を備えた「和田ハブ」の製作を始めました。その後、スーパーマーケットの出店が相次ぐなか、ハンドラベラー（値札貼り機）の製造販売に転換し、経営基盤を築いていきました。

1970年代後半からME化が進展すると、製品の電子制御化や多機能化に取り組み、モバイル型ラベルプリンターに進出しました。また、POSの普及とともに、値札に変わってバーコードが主流になると、日本で初めてのバーコードハンドラベラーを開発、販売を開始しました。最近では、Wi-Fi、タッチパネルを取り入れ、データ連携や操作性に優れた「HALLO neo-7」やキャラクターなどが印刷できる「ハピプリ」を投入し、ファーストフード店やコンビニエンスストアにも市場を拡げています。

同社は、大手メーカーとの競争もありますが、ユーザーのニーズを捉えた新製品開発や顧客の要望にきめ細かく応えるカスタマイズにより、モバイル型ラベルプリンターで揺るぎない地位を築いています。



会社外観



ラベルプリンター「HALLO neo-7」



北区きらりと光るものづくり顕彰



社長（前列）と社員の皆様

きらめき企業部門

株式会社ジンナイ

所在地 東京都北区豊島 3-23-10

電話 03-3911-5121

ホームページ <http://www.jinnai.co.jp/>

受賞の概要

ジンナイは、1952年の創業以来、雨衣や防水具を製造販売しています。現在は、雨衣や防寒服、救命衣の「ナダレス」、プロ仕様前掛、割烹着の「シャバルバ」、アウトドアウェアの「スブルース」「フリータ」といったブランドを展開しています。

同社の雨衣は、官公庁や自治体向けのものも多く、消防、災害対応、清掃、土木作業などで広く使われています。これらの用途に応じた防水性、透湿性といった機能性を重視した、特にユニフォーム向け雨衣としての商品づくりは、ユーザーに広く認められ、業界のなかでも盤石の地位を築いています。

顧客の要望に応じ、小ロットの注文でも即納できることが同社の強みの一つであり、今後は、多品種少量生産の効率性を高め、生産・流通体制の一層の充実に努めています。



会社看板



カタログ

北区きらりと光るものづくり顕彰



「満さくうどん」(左)と
「江戸の匠 うどん詰合せ」(右)

きらめき企業部門

玉川食品株式会社

所在地 東京都北区豊島 7-5-12

電話 03-3913-5705

ホームページ <http://www.edo-tamagawaya.jp/>

受賞の概要

玉川食品は 1935 年に創業し、現在はオリジナル商品の「満さくうどん」のほか、そば、焼そば、中華麺を造っています。

創業当初は、近所のそば店や家庭から小麦粉を預かって、それをうどんにして納めていました。戦後、1960 年には当時の食糧庁のモデル工場に指定され、学校給食用のうどんを製造するようになりました。スーパーマーケットや社員食堂を運営するケータリング会社にも、うどんやそばを納めるようになりました。

熱湯で麺を捏ねる湯捏製法、乾燥時間の長い熟成乾燥製法といった独特の製法を持つほか、モチっとした食感を際立たせる2段仕込みを考案して商品開発力を高めています。「満さくうどん」もこのような創意工夫のなかから生まれたオリジナル商品で、地元の人たちから好評を得てきました。最近では、江戸をテーマにしたオリジナルパッケージで包装したものや、麺つゆや柚子胡椒をセットにした高級感のある「満さくうどん」の商材をつくり、贈答品などへの販路を開拓しています。



幻の麺「やなぎ」(乾麺製造工程の中で、完全に乾燥する直前に、ほんの一瞬だけ見られる銚色に輝く麺)の試食会の様子



通常の約4倍、24時間かけて熟成乾燥させています

平成27年度

北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門

佐藤一寿 佐藤機械株式会社

所在地 北区豊島 2-13-2

電話 03-3919-7759

ホームページ <http://www.sato-kikai.co.jp/>

受賞の概要

佐藤一寿さんが経営する佐藤機械は、佐藤さんの父、春雄氏が1965年に創業した印刷機用ロールやシャフトの製作で定評のある会社です。

佐藤さんは、子供の頃から父の仕事を継ぐつもりで経理や溶接を学んで佐藤機械に入社し、先代の下でロールやシャフトの加工を学びました。

ロールやシャフトの品質を決める一番の要はバランスにあります。材料の不均質性からロールの回転軸は偏心してバランスが崩れますが、これを矯正する技術が重要になります。バランスには静バランスと動バランスがあり、特にロールを回転させたときに重心のズレから生じる遠心力によって回転軸が振れてしまう動不釣合が問題になります。佐藤さんは、この動バランスを修正する技能や技術に優れています。このバランス修正の技術は、創業以来培われたノウハウのうえに佐藤さんが様々な工夫を加えて実現したものです。

佐藤さんは、今後もロールやシャフト製作の仕事を続けていくため、技能や技術を高めるとともに、次世代を担う若手への継承に努めたいとしています。



作業場内



ダイナミックバルランシングマシン。
ロールの高速回転に対応した釣合い良さに調整が可能。



City of Kita

平成27年度

北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門

柴崎将臣 ニューコーゲイ株式会社

所在地 北区西ヶ原4-27-13 NKビル

電話 03-3576-8611

ホームページ <http://newkogeitokyo.jp/>

受賞の概要

柴崎将臣さんはニューコーゲイで宝飾品細工に携わっています。同社は老舗の宝飾品店を取引先を持つ業界トップクラスの技能を持つ企業です。テレビ番組で使われたダイヤモンド167カラット、1867ピースを敷き詰めた2億円のプラチナ製ビジュバックが同社の作品例として有名で、宮内庁御用達の宝飾品も製作しています。

柴崎さんは宝飾品細工の世界に入ると、鑄造でつくられる量産品の仕上げやロストワックス用の原型製作に携わりました。一品ものを製作することもありましたが、宝飾品細工の全工程を一人でやってみたいという思いでニューコーゲイに入社しました。それまでは、速く仕上げることが第一でしたが、同社では速く仕上げると同時に丁寧な仕事が求められました。柴崎さんは繊細な仕上げができるよう精進し、全体のデザインと調和したクラスプなどの留具の製作や、デザイナーがイメージした揺れを実現するチェーンの製作など、可動部の細工に秀でた技能を持つようになりました。そして、JJA ジュエリーデザインアワード2004 グランプリなどジュエリー業界でも権威ある顕彰を受賞しています。



西田社長と柴崎さん



作業風景

北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門 若手枠

佐藤 努 第一化学工業株式会社

所在地 北区浮間 5-7-9

電話 03-3966-2476

ホームページ <http://www.daiichi-kagaku.com/>

受賞の概要

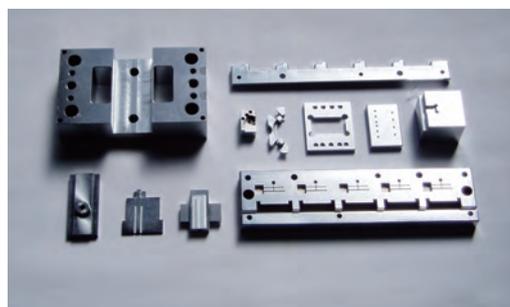
佐藤努さんは、子供の頃からめっき工であった父親に連れられ工場に行き、父親がめっきをする姿を見ていました。幼い頃からめっき工場に馴染んでいた佐藤さん自身も第一化学工業に入社し、めっき工の道を歩み始めました。

第一化学工業は、耐摩耗性、硬さといった機能性が大切な硬質クロムめっきを専業とする会社です。同社は、「膜厚 1 μ 」、「高電流部のバリ・花咲きのないめっき」、「 ϕ 4 mm以上の内径めっき」をキャッチフレーズに業界のなかでも定評のある企業です。佐藤さんは、同社の技術を確立した立役者の一人である工場長の下で、めっき技能の習得に努めました。佐藤さんは、射出成形用金型や真空成形金型、各種の金型部品などのめっきを任されるようになり、極めて高い精度が求められる薬の錠剤を成形する打錠機の型のめっき法を確立するほどに高い技能を習得しました。

佐藤さんは、同社の次世代を担う中心的な存在として期待されていると同時に、若手の育成にも努めています。



会社外観



めっき加工品

北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門 若手枠

高橋 友穂

所在地 北区岸町 1-12-24-309

メールアドレス sometuke.yuu@gmail.com

受賞の概要

高橋友穂さんは芸術系大学を卒業後、陶芸職人になりたいと佐賀県の有田で染付を学びました。そして、有田焼を代表する窯元で掻き落としや染付などの仕事に従事しました。人間国宝の職人がいる有田のなかで多くの薫陶を受けた後、故郷の北区に帰ってきました。

帰郷した後、高橋さんは周囲の奨めもあり、陶芸作家としての道を歩むこととなります。高橋さんは、掻き落としや染付といった工程の職人であっただけに、この面で特徴を出した作品づくりに取り組みます。有田焼で培われた技法を活かしながらも独自の創作を表現するため様々な工夫をしています。例えば、青を表色するコバルト、茶の鉄、グリーンの酸化クロムといった酸化金属を配合した呉須という絵具があります。高橋さんは、酸化金属の配合割合や、磁器や陶器の焼成時間を工夫して独特な発色を持った作品をつくっています。器を使う人が生活用具として自由な発想で使える作品にも取り組んでいます。高橋さんのこのような作品は、展示会に出展され評価が高まっています。



フリーカップ「ロビンフッド」(左)、
「雷文菊づくし」(中)、「海遊記・内七宝地文」(右)



大皿 (梅文皿)

